Ⅱ．リスク判定

本章では、各設問の選択肢の該当数によって、高齢者が要介護状態になる各種リスクの判定を行っている。※リスク判定基準は、国の資料「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」（令和４年８月版）に準じる。

１．運動器機能の低下

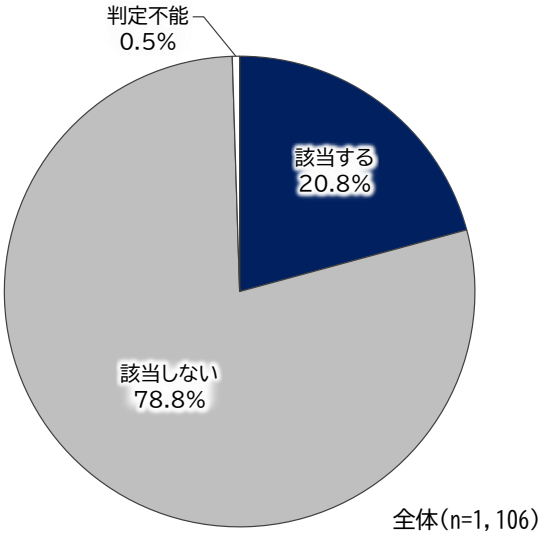
高齢者の運動器の機能に関して、リスク判定を行う。下表に示した５つの設問のうち、網掛け部分に３問以上該当した場合、運動器の機能低下と判定される。

問番号		内容	回答
問３	（1）	階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか	1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない
	（2）	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない
	（3）	15 分間位続けて歩いていますか	1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない
	（6）	過去１年間に転んだ経験がありますか	1 何度もある 2 １度ある 3 ない
	（7）	転倒に対する不安は大きいですか	1 とても不安である 2 やや不安である 3 あまり不安でない 4 不安でない

運動機能判定の結果、「該当する」は 20.8%となっている。

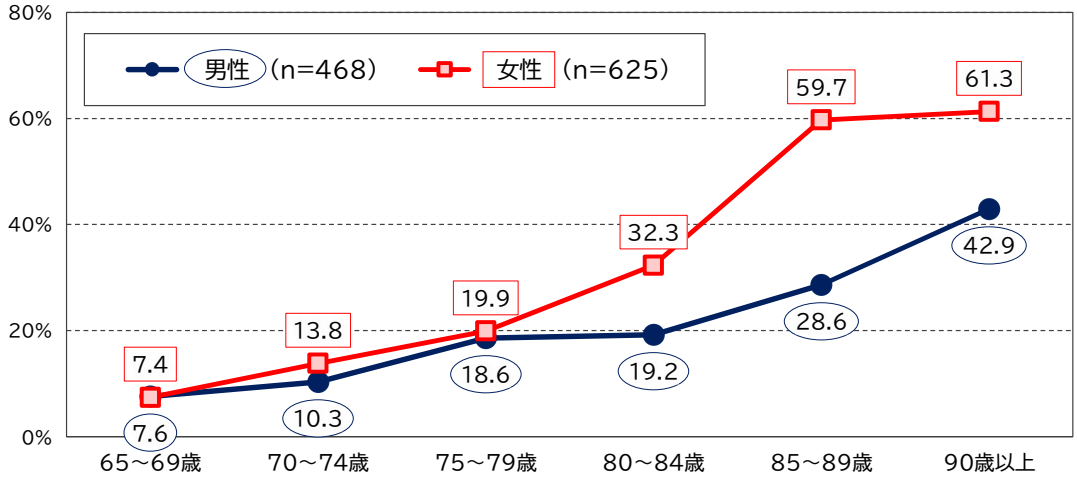
【運動器機能の低下判定】

選択肢		回答者数	割合(%)
1	該当する	230	20.8
2	該当しない	871	78.8
	判定不能	5	0.5
全体		1,106	100.0



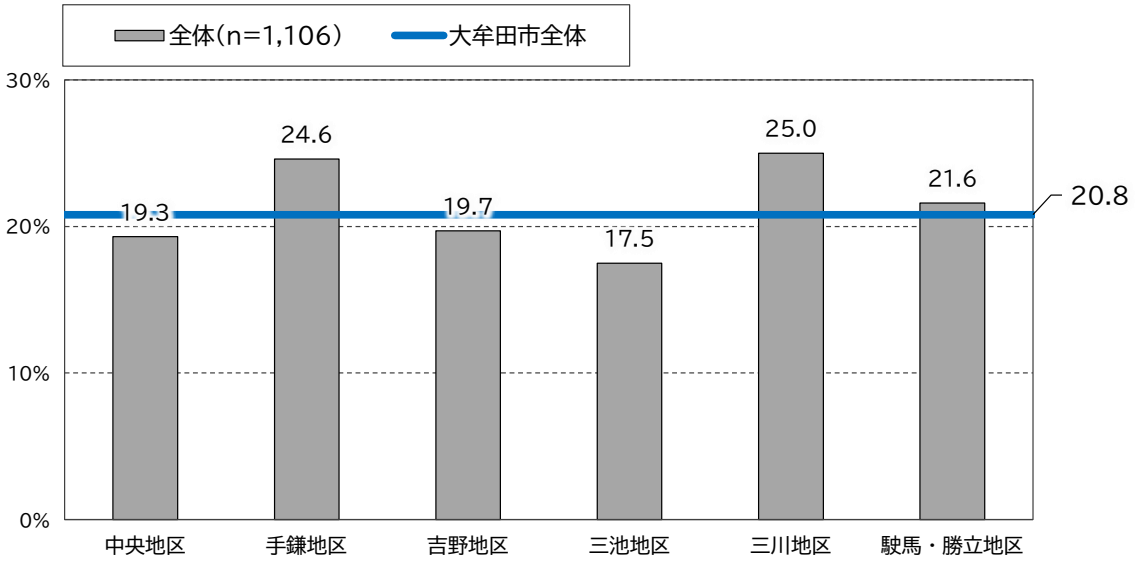
性・年齢別でみると、「該当する」の割合は男女ともに年齢が高くなるほど増加傾向にあり、すべての年齢階級において女性が男性を上回っている。特に、75 歳以上の後期高齢者からリスクが増しており、女性 90 歳以上ではリスク該当者は 61.3%となっている。

【性・年齢別　運動器機能の低下判定（「該当する」の割合）】



各地区地域包括支援センターエリア別でみると、「該当する」の割合は三川地区（25.0%）で最も高く、三池地区（17.5%）で最も低くなっている。

【各地区地域包括支援センターエリア別　運動器機能の低下判定（「該当する」の割合）】



２．転倒リスク

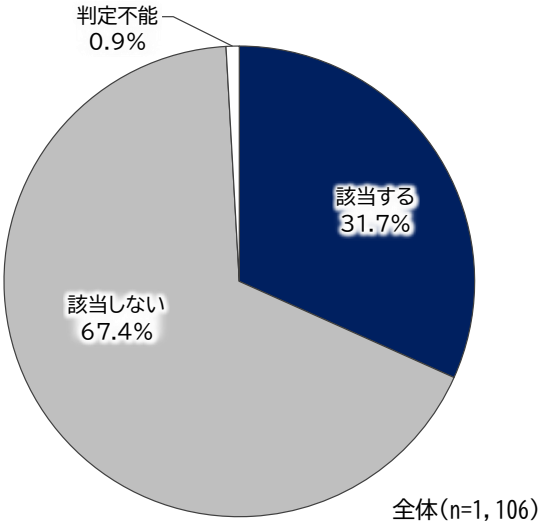
高齢者の転倒経験から転倒リスクの判定を行う。以下の設問のうち、網掛け部分に該当した場合、転倒リスクのある高齢者と判定される。

問番号		内容	回答
問３	（６）	過去１年間に転んだ経験がありますか	１ 何度もある ２ １度ある ３ ない

転倒リスク判定の結果、「該当する」は 31.7%となっている。

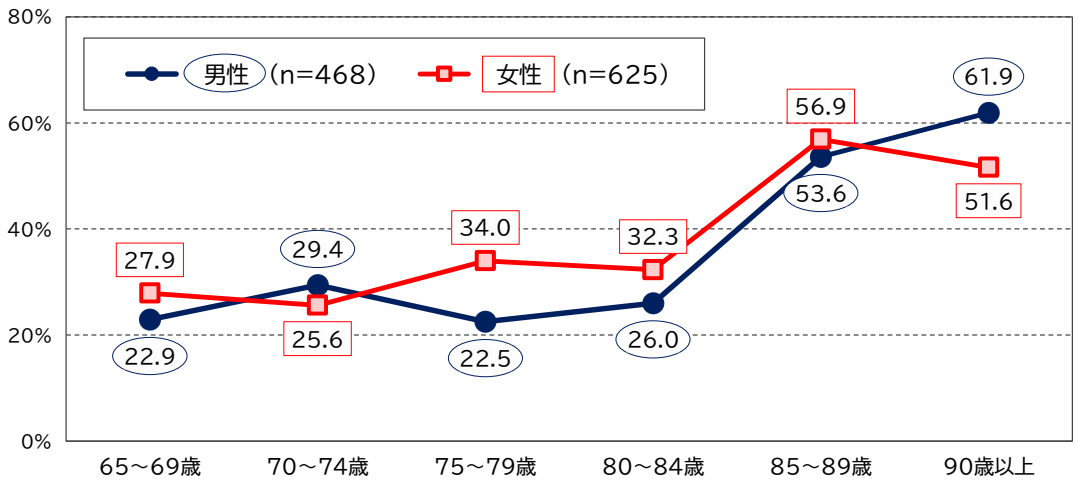
【転倒リスクの低下判定】

選択肢		回答者数	割合(%)
1	該当する	351	31.7
2	該当しない	745	67.4
	判定不能	10	0.9
全体		1,106	100.0



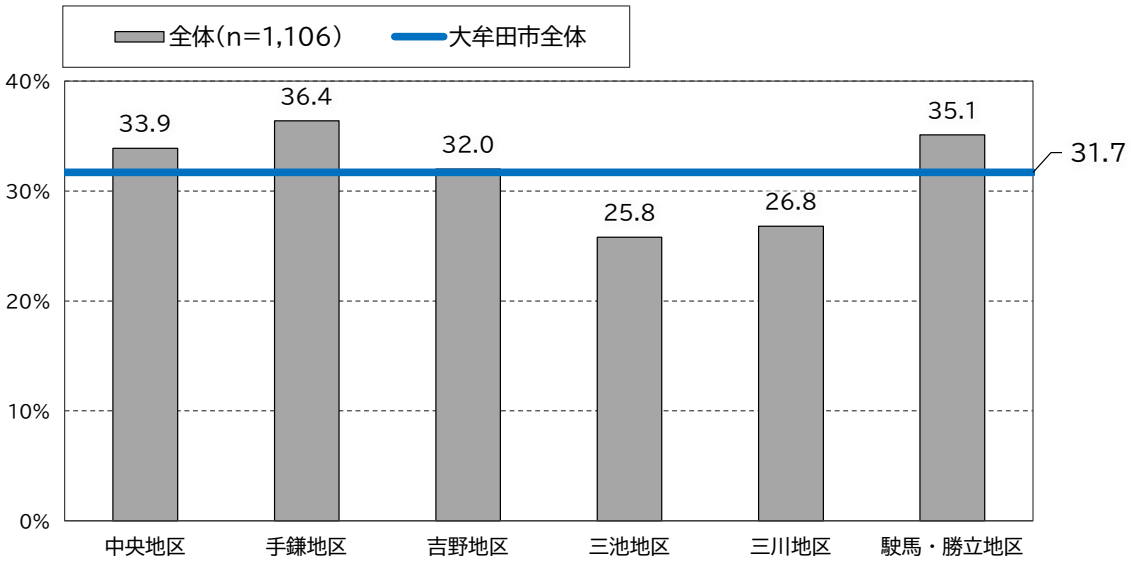
性・年齢別でみると、「該当する」の割合は男性の 90 歳以上で 61.9%と最も高くなっている一方、女性は 85～89 歳で 56.9%と最も高くなっている。また、70～74 歳、90 歳以上を除く年齢階級で女性の方が高くなっている。

【性・年齢別　転倒リスク判定（「該当する」の割合）】



各地区地域包括支援センターエリア別でみると、手鎌地区（36.4%）で最も高く、三池地区（25.8%）で最も低くなっている。

【各地区地域包括支援センターエリア別　転倒リスク判定（「該当する」の割合）】



３．閉じこもり傾向

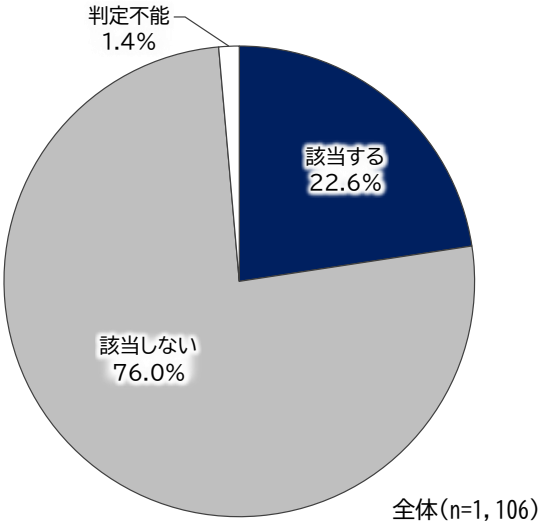
高齢者の外出状況から閉じこもりリスクの判定を行う。以下の設問のうち、網掛け部分に該当した場合、閉じこもり傾向のある高齢者と判定される。

問番号		内容	
問３	（８）	週に１回以上は外出していますか	１ ほとんど外出しない ２ 週１回 ３ 週２～４回 ４ 週５回以上

閉じこもり傾向判定の結果、「該当する」は 22.6%となっている。

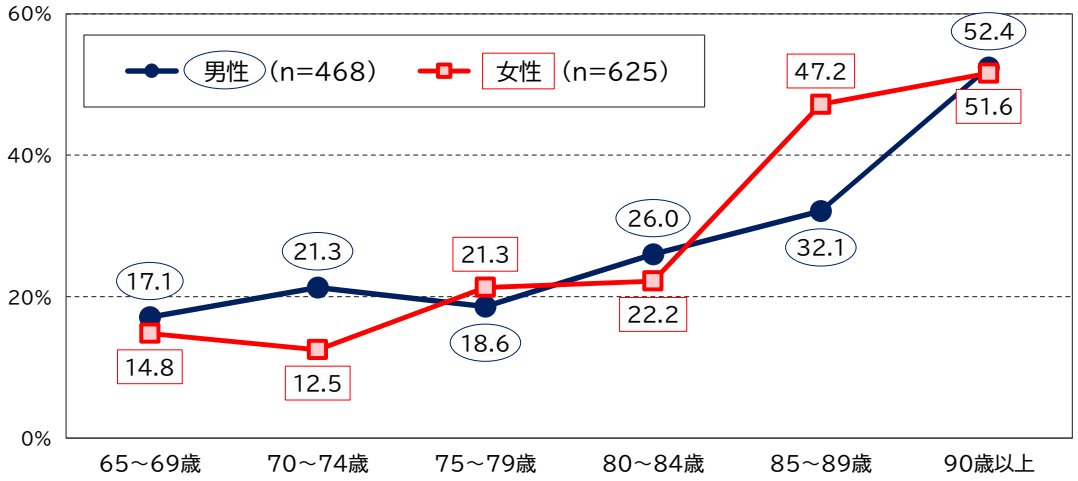
【閉じこもり傾向判定】

選択肢		回答者数	割合(%)
1	該当する	250	22.6
2	該当しない	841	76.0
	判定不能	15	1.4
全体		1,106	100.0



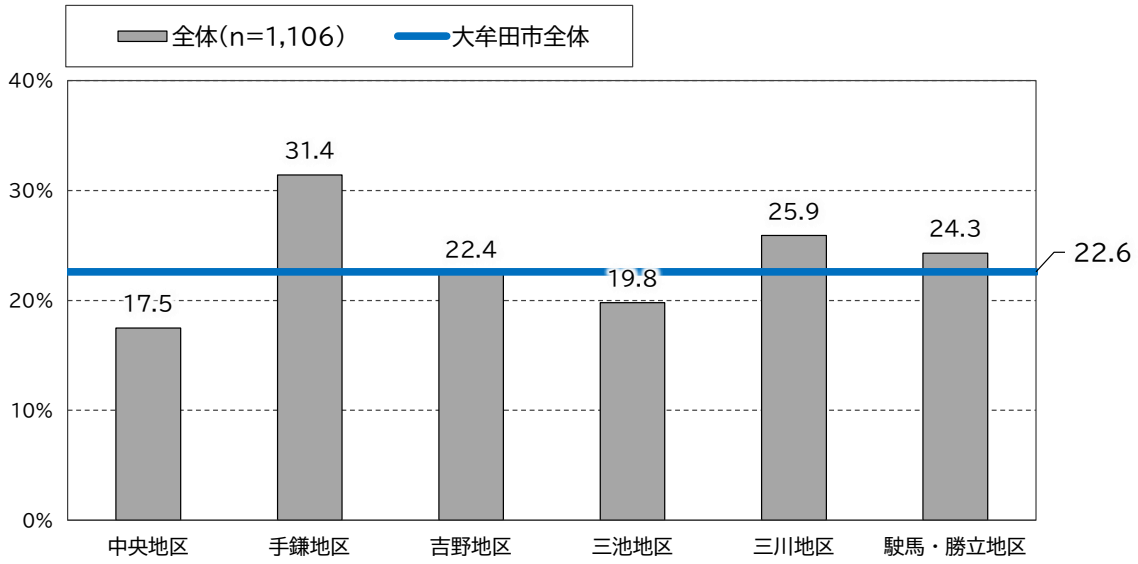
性・年齢別でみると、「該当する」の割合は男女ともに年齢が高くなるほど増加傾向にあり、男性は 75 歳以降、女性は 80 歳以降、増加傾向が強まっている。特に 85～89 歳では 15.1 ポイントと男女間で大きく差がみられる。

【性・年齢別　閉じこもり判定（「該当する」の割合）】



各地区地域包括支援センターエリア別でみると、「該当する」の割合は手鎌地区（31.4%）で最も高く、中央地区（17.5%）で最も低くなっている。

【各地区地域包括支援センターエリア別　閉じこもり判定（「該当する」の割合）】



４．低栄養傾向

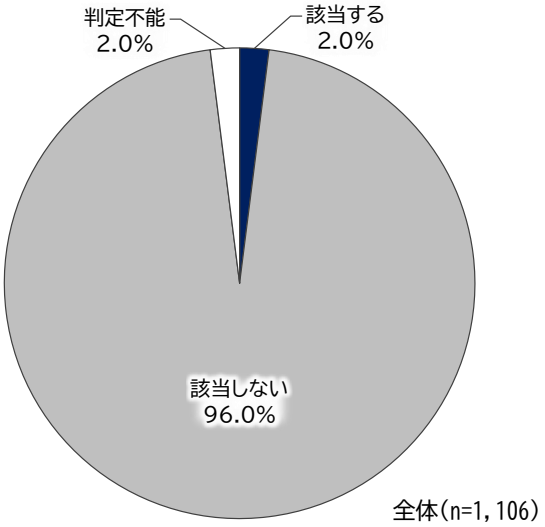
高齢者の身長・体重から、ＢＭＩを算出し、低栄養のリスク判定を行う。ＢＭＩが 18.5 以下、かつ、この半年間で体重減少があった場合、低栄養状態と判定される。

問番号		内容	回答
問４	（１）	体重（ｋｇ）÷｛身長（ｍ）×身長（ｍ）｝	≦18.5
	（７）	６か月間で２～３kg以上の体重減少がありましたか	１ はい ２ いいえ

低栄養傾向判定の結果、「該当する」は 2.0%となっている。

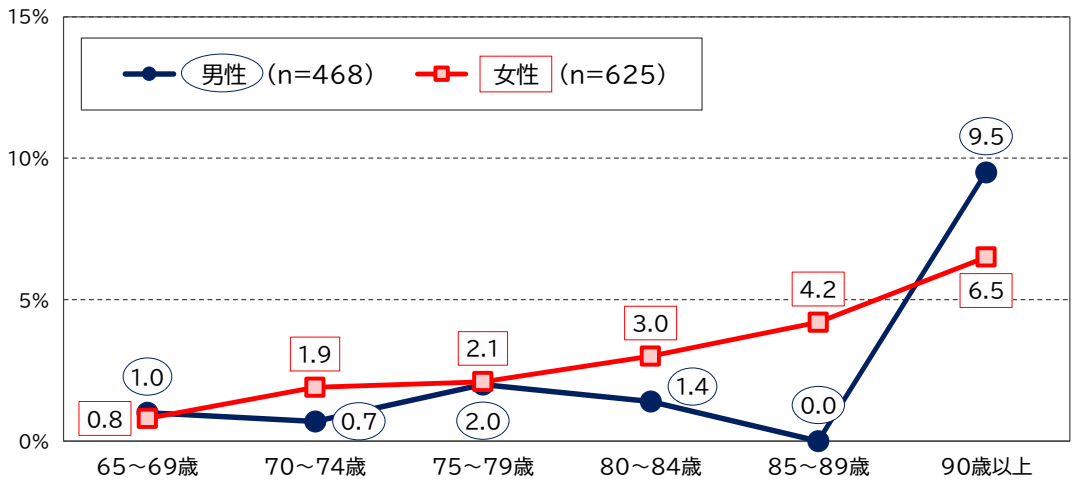
【低栄養傾向判定】

選択肢		回答者数	割合(%)
1	該当する	22	2.0
2	該当しない	1,062	96.0
	判定不能	22	2.0
全体		1,106	100.0



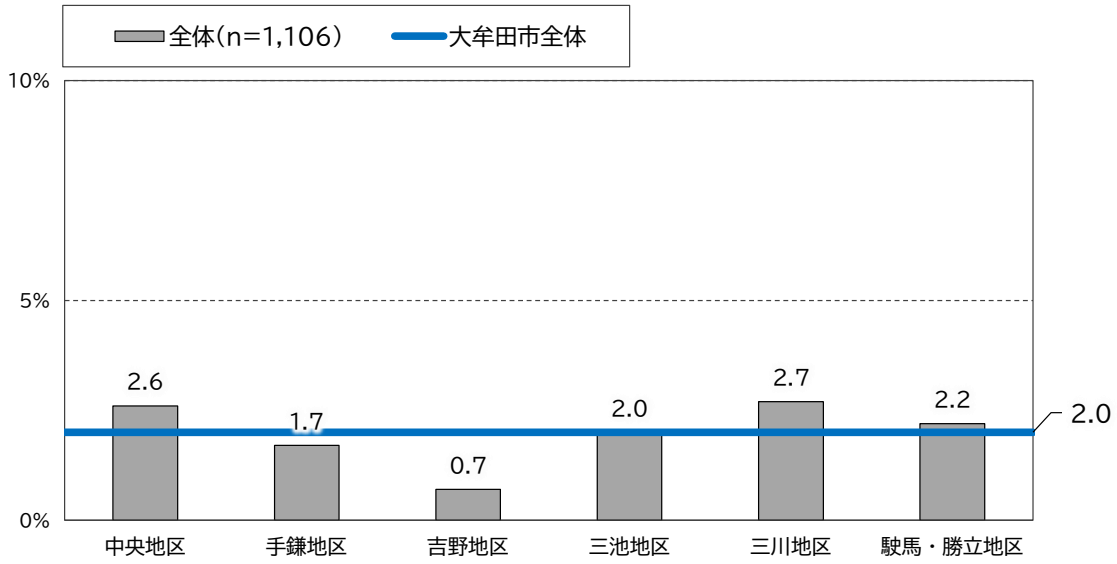
性・年齢別でみると、「該当する」の割合は男性の 90 歳以上で 9.5%と最も高くなっている。女性は年齢が高くなるほど増加傾向にあり、90 歳以上で 6.5%となっている。

【性・年齢別　低栄養傾向判定（「該当する」の割合）】



各地区地域包括支援センターエリア別でみると、「該当する」の割合は三川地区（2.7%）で最も高く、吉野地区（0.7%）で最も低くなっている。

【各地区地域包括支援センターエリア別　低栄養傾向判定（「該当する」の割合）】



５．咀嚼機能の低下

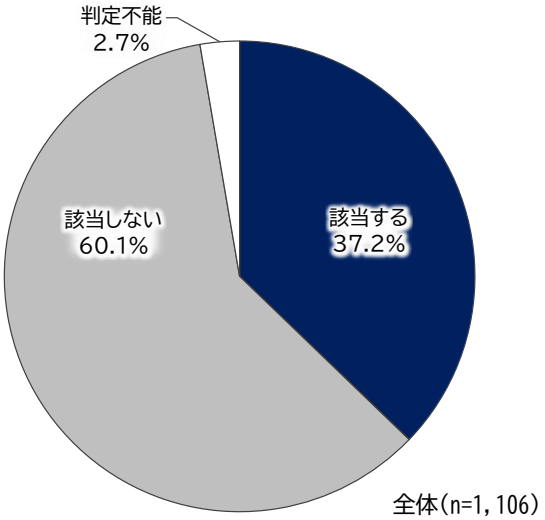
口腔機能の低下のうち、咀嚼機能の低下を把握する。以下の設問のうち、網掛け部分に該当した場合、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者と判定される。

問番号		内容	回答
問４	（２）	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1　はい 2　いいえ

咀嚼機能低下判定の結果、「該当する」の割合は 37.2%となっている。

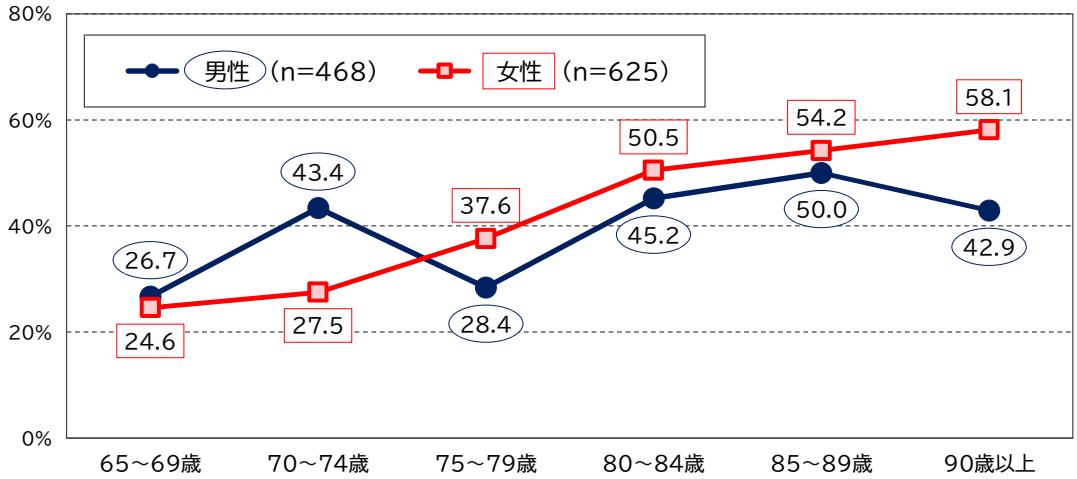
【咀嚼機能の低下判定】

選択肢		回答者数	割合(%)
1	該当する	411	37.2
2	該当しない	665	60.1
	判定不能	30	2.7
全体		1,106	100.0



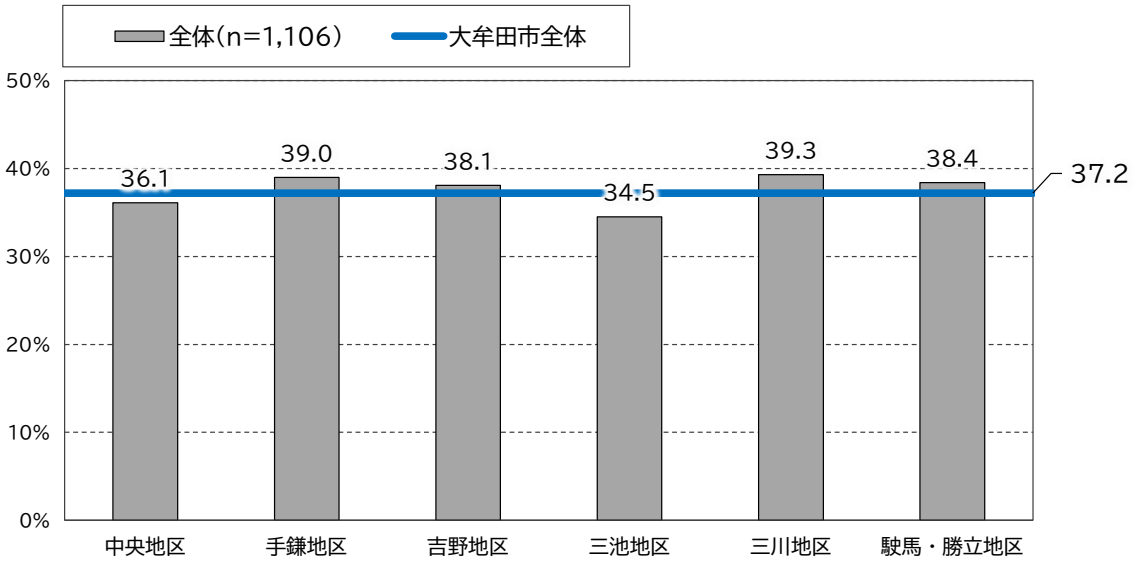
性・年齢別でみると、「該当する」の割合は、女性では年齢が高くなるほど増加傾向にあり、90 歳以上で 58.1%と最も高くなっている。男性は、65～69 歳、75～79 歳で低くなっているものの、85～89 歳で 50.0%と最も高くなっている。

【性・年齢別　咀嚼機能の低下判定（「該当する」の割合）】



各地区地域包括支援センターエリア別でみると、「該当する」の割合は三川地区（39.3%）で最も高く、三池地区（34.5%）で最も低くなっている。

【各地区地域包括支援センターエリア別　咀嚼機能の低下判定（「該当する」の割合）】



６．口腔機能の低下

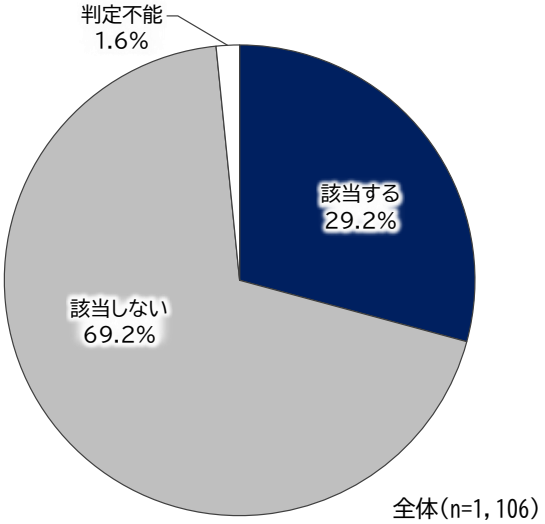
口腔機能の低下を把握する。下表に示した３つの設問のうち、網掛け部分に２問以上該当した場合、口腔機能の低下と判定される。

問番号		内容	回答
問4	（2）	半年前に比べて堅いものが食べにくくなりましたか	1 はい 2 いいえ
	（3）	お茶や汁物等でむせることがありますか	1 はい 2 いいえ
	（4）	口の渇きが気になりますか	1 はい 2 いいえ

口腔機能の低下判定の結果、「該当する」の割合は 29.2%となっている。

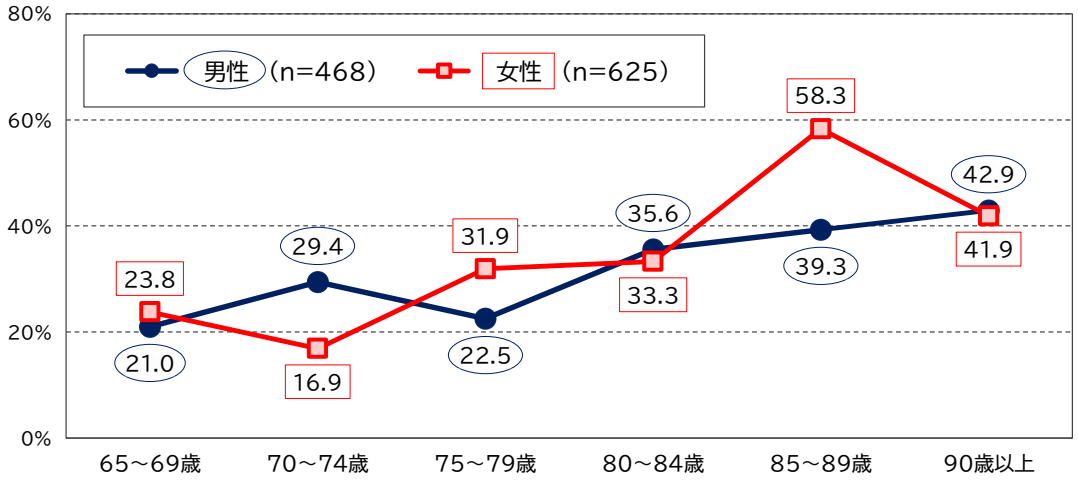
【口腔機能の低下判定】

選択肢		回答者数	割合(%)
1	該当する	323	29.2
2	該当しない	765	69.2
	判定不能	18	1.6
全体		1,106	100.0



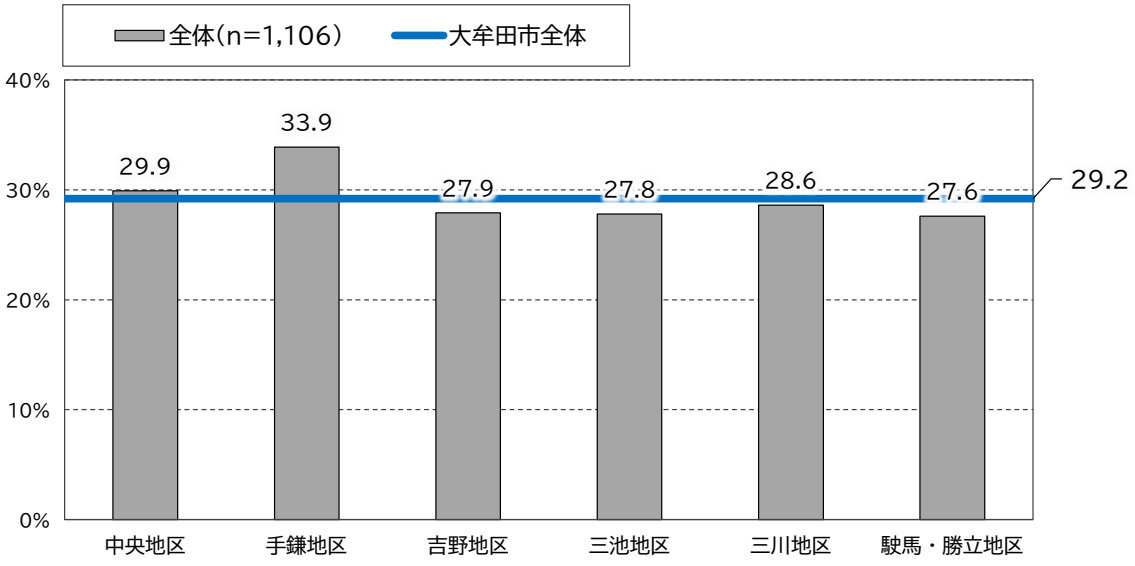
性・年齢別でみると、「該当する」の割合は男性が 90 歳以上で 42.9%と最も高くなっている一方、女性は 85～89 歳で 58.3%と最も高くなっており、年齢階級による差がみられるが、全体的に見ると年齢が高くなるほど増加傾向にある。

【性・年齢別　口腔機能の低下判定（「該当する」の割合）】



各地区地域包括支援センターエリア別でみると、「該当する」の割合は手鎌地区（33.9%）で最も高く、駿馬・勝立地区（27.6%）で最も低くなっている。

【各地区地域包括支援センターエリア別　口腔機能の低下判定（「該当する」の割合）】



７．認知機能の低下

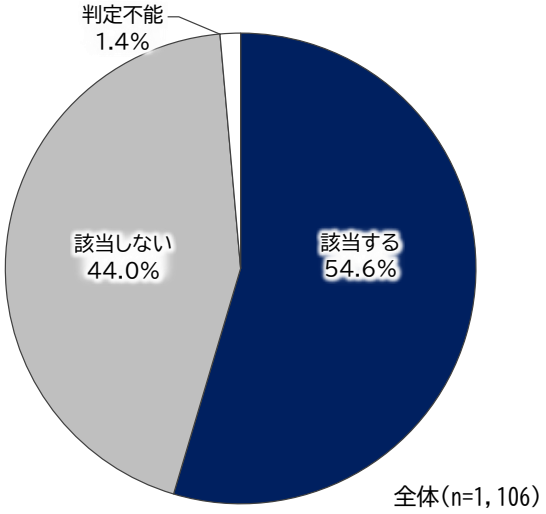
認知機能の低下を把握する。以下の設問のうち、網掛け部分に該当した場合、認知機能の低下が疑われる高齢者と判定される。

問番号		内容	回答
問５	（１）	物忘れが多いと感じますか	１ はい ２ いいえ
	（２）	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	１ はい ２ いいえ
	（３）	今日が何月何日かわからない時がありますか	１ はい ２ いいえ

認知機能の低下判定の結果、「該当する」の割合は 54.6%となっている。

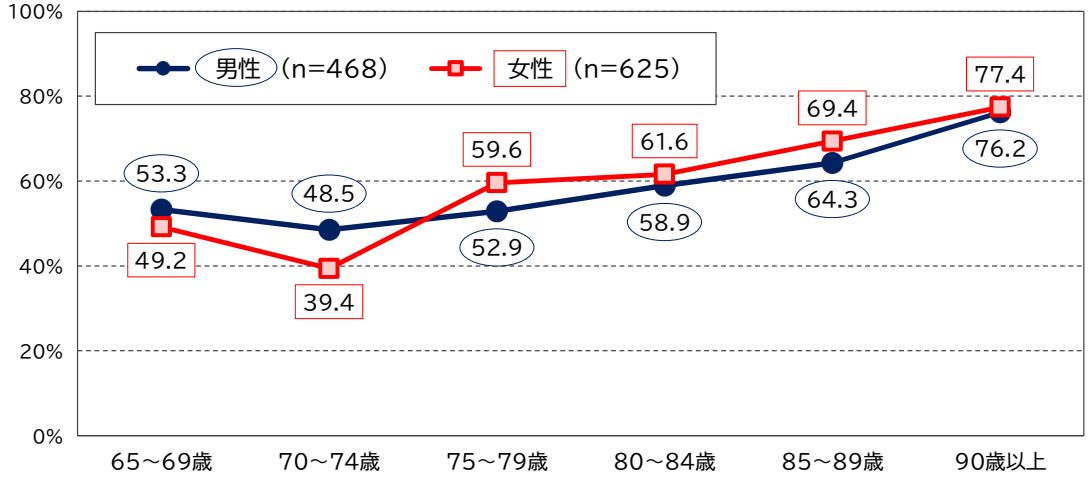
【認知機能の低下判定】

選択肢		回答者数	割合(%)
1	該当する	604	54.6
2	該当しない	487	44.0
	判定不能	15	1.4
全体		1,106	100.0



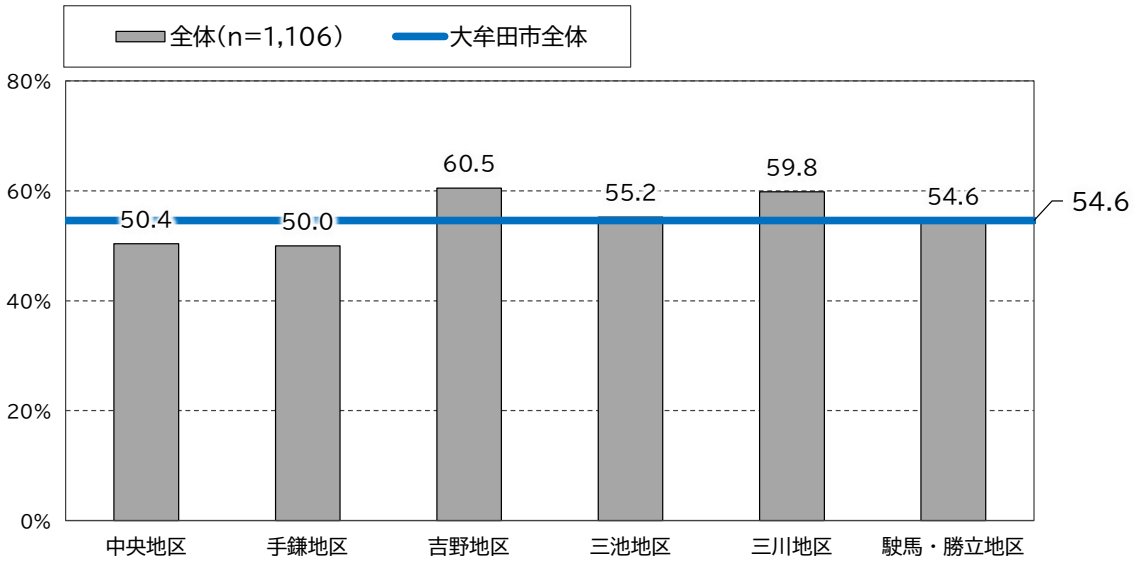
性・年齢別でみると、「該当する」の割合は男女ともに 70～74 歳で低下するものの、以降は年齢が高くなるほど増加する傾向にあり、90 歳以上で男性は 76.2%、女性は 77.4%と最も高くなっている。

【性・年齢別　認知機能の低下判定（「該当する」の割合）】



各地区地域包括支援センター別でみると、「該当する」の割合は吉野地区（60.5%）で最も高く、手鎌地区（50.0%）で最も低くなっている。

【各地区地域包括支援センターエリア別　認知機能の低下判定（「該当する」の割合）】



８．ＩＡＤＬの低下

ＩＡＤＬは、日常生活を送る上で必要な動作のうち、買物や食事の用意等の家事全般や、外出して乗り物に乗ること、金銭管理等の動作を指し、項目ごとの自立度で評価する。

本調査では、各項目を点数化し、その合計で自立度が「高い（５点）」、「やや低い（４点）」、「低い（３点以下）」と分類し集計を行っている。

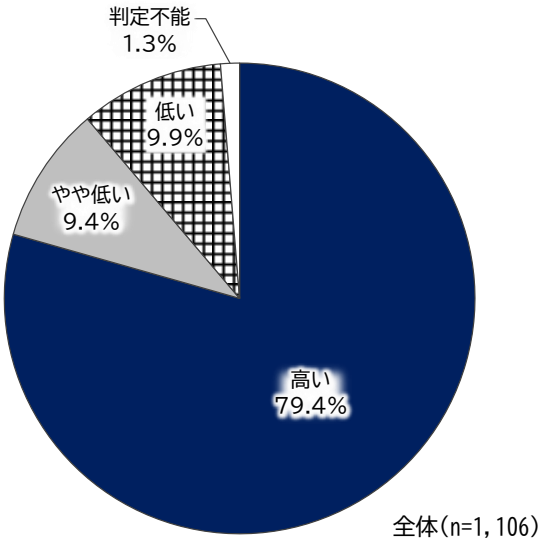
このうち、「低い（３点以下）」に該当した場合、手段的自立度（ＩＡＤＬ）の低下者（３点以下）と判定する。

問番号		内容	回答	点数化
問５	(4)	バスや電車を使って１人で外出していますか（自家用車でも可）	1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない	1点 1点 0点
	(5)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない	1点 1点 0点
	(6)	自分で食事の用意をしていますか	1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない	1点 1点 0点
	(7)	自分で請求書の支払をしていますか	1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない	1点 1点 0点
	(8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない	1点 1点 0点

ＩＡＤＬの低下判定の結果、「低い（３点以下）」の割合は 9.9%となっている

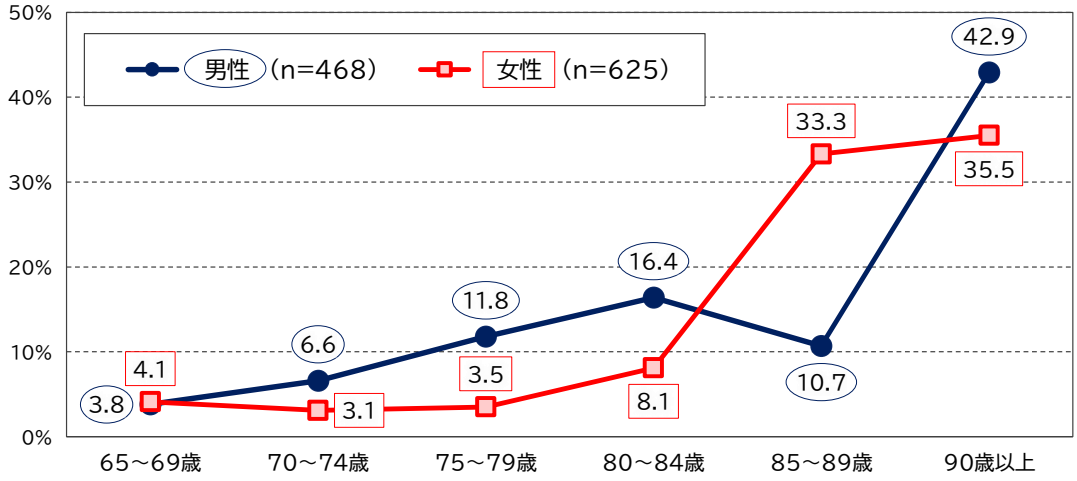
【ＩＡＤＬの低下判定】

選択肢		回答者数	割合(%)
1	高い	878	79.4
2	やや低い	104	9.4
3	低い	110	9.9
	判定不能	14	1.3
全体		1,106	100.0



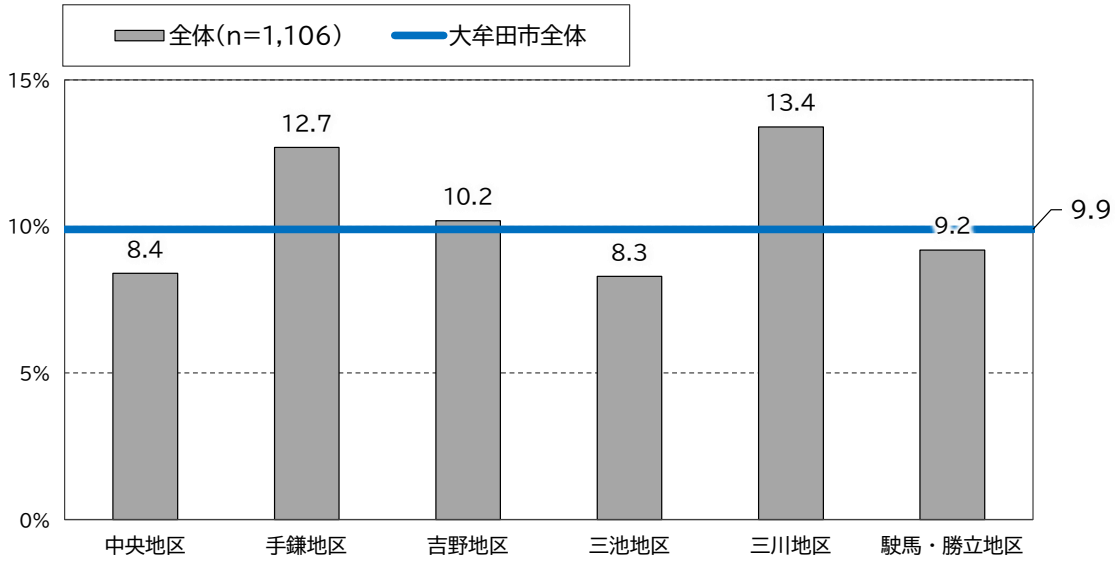
性・年齢別でみると、「低い」割合は男が 85～89 歳以降、女性が 80～84 歳以降の年齢階級においてＩＡＤＬの状況が悪化している。男女ともに 90 歳以上が最も高く、男性が 42.9%、女性が 35.5%となっており、男性は 4 割を超えている。

【性・年齢別　ＩＡＤＬの低下判定（「低い」の割合）】



各地区地域包括支援センターエリア別でみると、「低い」の割合は三川地区（13.4%）で最も高く、三池地区（8.3%）で最も低くなっている。

【各地区地域包括支援センターエリア別　ＩＡＤＬの低下判定（「低い」の割合）】



９．うつ傾向

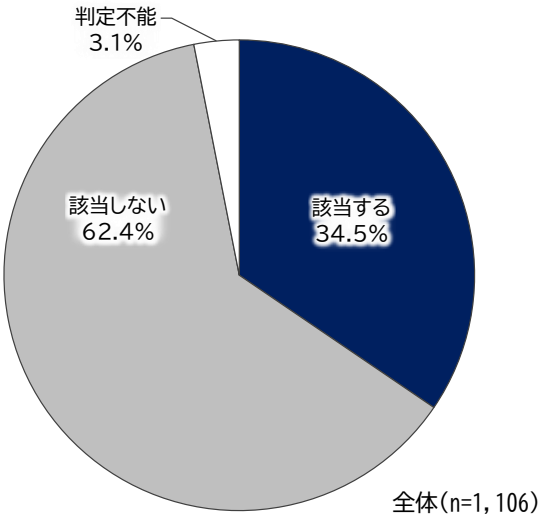
高齢者のうつ傾向に関して、リスク判定を行う。下表に示した２つの設問のうち、網掛け部分に１問以上該当した場合、うつ傾向の高齢者と判定される。

問番号		内容	回答
問９	（４）	この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	１ はい ２ いいえ
	（５）	この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	１ はい ２ いいえ

うつ傾向判定の結果、「該当する」の割合は 34.5%となっている。

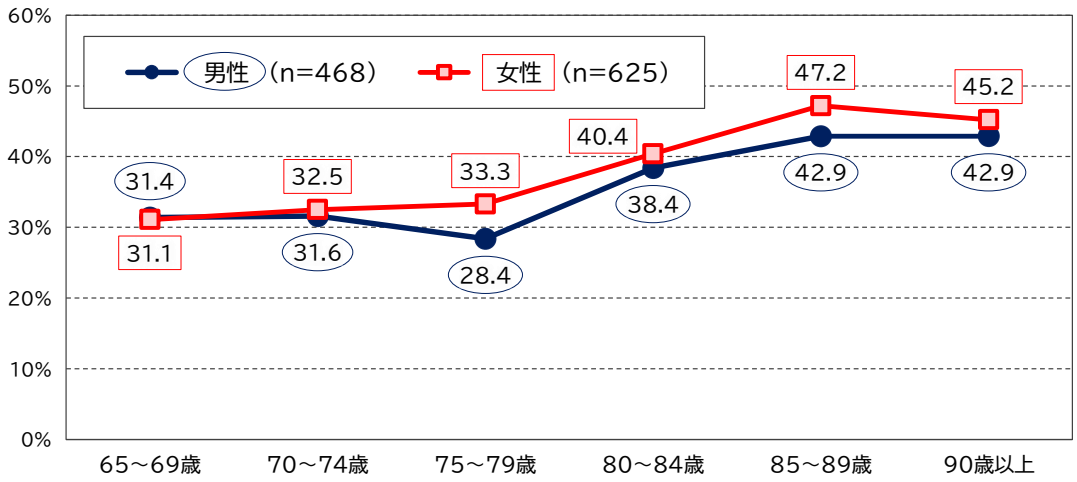
【うつ傾向判定】

選択肢		回答者数	割合(%)
1	該当する	382	34.5
2	該当しない	690	62.4
	判定不能	34	3.1
全体		1,106	100.0



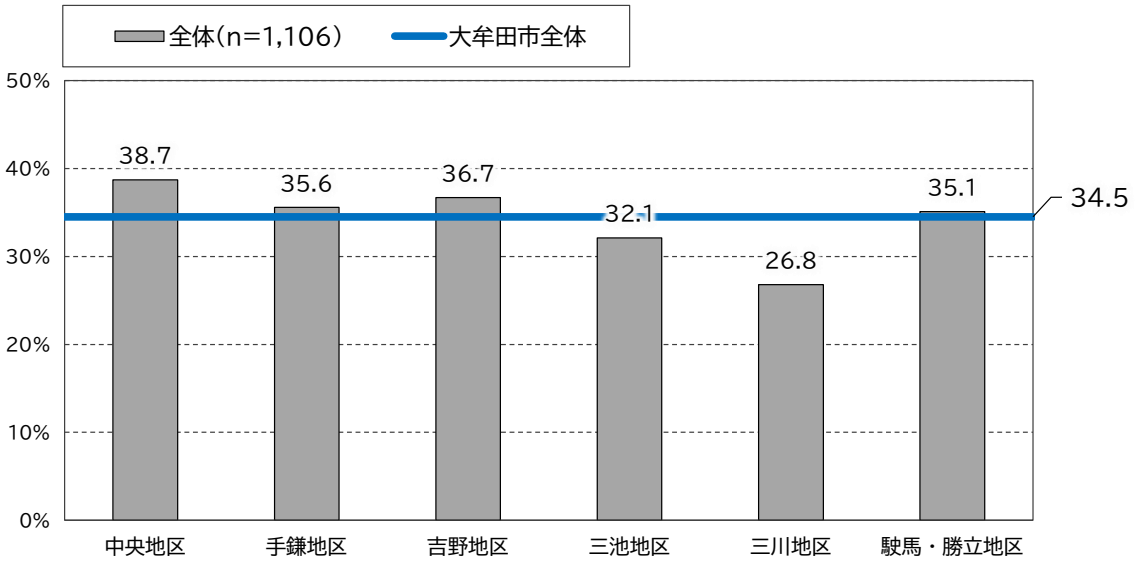
性・年齢別でみると、「該当する」の割合は、65～69 歳を除く年齢階級で女性の方が男性より高くなっている。男女ともに 85～89 歳の年齢階級で最も高くなっており、男性は 42.9%、女性は 47.2%となっている。

【性・年齢別　うつ傾向判定（「該当する」の割合）】



各地区地域包括支援センターエリア別でみると、「該当する」の割合は中央地区（38.7%）で最も高く、三川地区（26.8%）で最も低くなっている。

【各地区地域包括支援センターエリア別　うつ傾向判定（「該当する」の割合）】



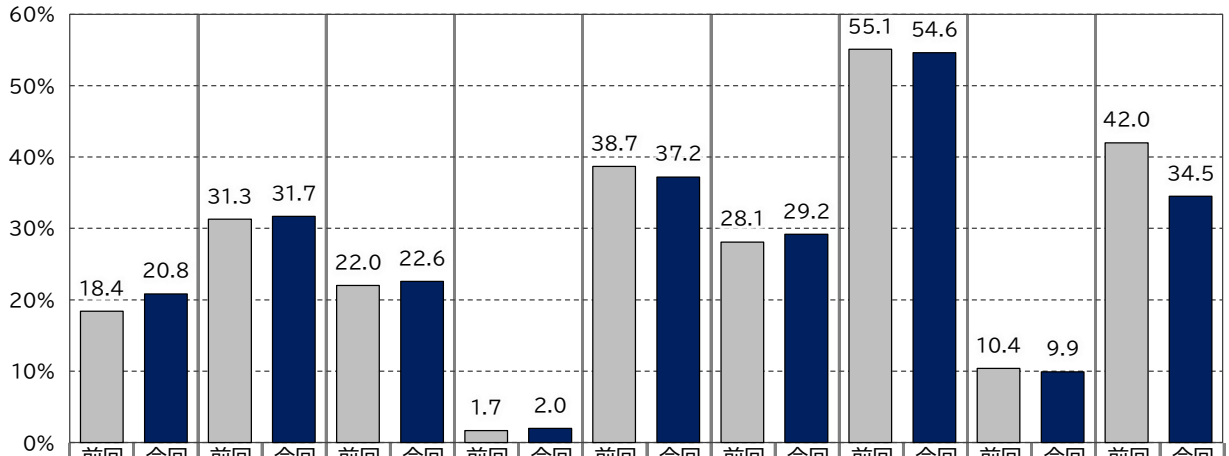
10. 前回調査との比較

ここまでみてきた各種リスクの該当状況について、前回調査（令和２年度圏域ニーズ調査）と比較を行った。

下図中の数値は各種リスク該当者の割合、差は今回調査の該当者率から前回調査の該当者率を除算したものであり、差がマイナスであれば、リスク該当者率が前回調査比で減少していることを意味する。

前回調査との比較でみると、前回調査比で減少しているのは「うつ傾向」が 7.5 ポイント減、「咀嚼」が 1.5 ポイント減、「認知機能」「ＩＡＤＬ」が 0.5 ポイント減である。逆に前回調査比で増加しているのは、「運動器」が 2.4 ポイント増、「口腔」が 1.1 ポイント増、「閉じこもり」が 0.6 ポイント増、「転倒リスク」が 0.4 ポイント増、「低栄養」が 0.3 ポイント増である。

【各種リスク該当者率の前回比較（「該当する」の割合）】



	運動器		転倒リスク		閉じこもり		低栄養		咀嚼		口腔		認知機能		ＩＡＤＬ		うつ傾向	
	前回（Ｒ２）	今回（Ｒ５）	前回（Ｒ２）	今回（Ｒ５）	前回（Ｒ２）	今回（Ｒ５）	前回（Ｒ２）	今回（Ｒ５）	前回（Ｒ２）	今回（Ｒ５）	前回（Ｒ２）	今回（Ｒ５）	前回（Ｒ２）	今回（Ｒ５）	前回（Ｒ２）	今回（Ｒ５）	前回（Ｒ２）	今回（Ｒ５）
	18.4	20.8	31.3	31.7	22.0	22.6	1.7	2.0	38.7	37.2	28.1	29.2	55.1	54.6	10.4	9.9	42.0	34.5
差		2.4		0.4		0.6		0.3		-1.5		1.1		-0.5		-0.5		-7.5

前回調査（Ｒ２）ｎ＝1,547、今回調査（Ｒ５）ｎ＝1,106